

新庄市議会 行政視察報告書

会派又は議員名 絆の会

【全体的事項】

1. 視察日程 平成25年11月18日(月)～19日(火)
2. 調査事項(視察先)
 - (1) 小中一貫教育・地域学校園について(宇都宮市議会事務局)
 - (2) 農地・水・環境保全向上対策事業を活用した地域づくりについて(宇都宮市逆面地区)
3. 視察参加議員(議席順)
石川正志 佐藤義一 小嶋富弥 清水清秋(代表)
山口吉静 森 儀一

【具体的事項】

調査事項(1)

宇都宮市では、全市一斉に平成24年4月から小中一貫教育を実施している。計画から実施にいたる経緯を調査するため視察を行った。(宇都宮市)

人口：516,385人 面積：416.84km²

(視察事項)

- 導入の経緯と基本的な考え方について
大都市における私学志向 中1ギャップの解消 身に付けるべき学力の保障
学校を核とした「学び」
- 「小中一貫教育」の取組について
 - ◎小中一貫教育カリキュラムの実施
 - ◎小中教員の連携
学力向上非常勤講師(推進主任後補充)1 地域学校園あたり1名
 - ◎小中相互乗り入れ授業
学力向上非常勤講師(相互乗り入れ授業後補充)1 地域学校園あたり1名
中学校から小学校へ
学力向上非常勤講師(相互乗り入れ授業後補充)1 地域学校園あたり1名
小学校から中学校へ

◎小学校 6 年生の進学先中学校訪問

◎小小交流活動

○魅力ある学校づくり地域協議会と「地域学校園」の取組について

○その他

■視察日時 平成 25 年 11 月 18 日 (月)
午後 1 時 00 分～3 時 00 分

■所 感

新庄市において施設一体型小中一貫教育校が平成 27 年 4 月に開校するなど、小中一貫教育が本格的に始まる中、2 ヶ年のモデル校で先行実施の後、平成 24 年から小中一貫教育を実施している宇都宮市を訪ね研修を行った。

新庄市と比較して宇都宮市の場合、小中一貫教育に取り組む背景として学校規模等若干の相違はあるものの、そのねらいや進め方は概ね同様である。この度は、小中教員の連携及び相互乗り入れ授業の事項に関して特筆してみる。両事項は小中一貫教育において、スムーズな学校運営及び子供たちの学力向上に直結する、まさに、根幹となすべき重要項目と考えられる。新庄においても、小中一貫教育の推進を図るため既に計画(一部実施)されていると聞いている。



宇都宮市の場合、何れも後補充という形で非常勤講師を活用している。一学校園あたりそれぞれ 3 名、市の負担で採用されている。(教員採用試験で採用されなかった人。次回採用試験時は一次試験免除。月額 17 万円。) 後補充の方法は、推進主任補充として中学校へ、相互乗り入れ授業補充として小中それぞれに 1 名ずつ配置されている。中学校から小学校への乗り入れ授業は主に、授業に連続性を持たせ中学校での「つまずき」をなくすため、小学校から中学校へは、学校生活不適應の兆候の見取りのため実施している。また、中学校から小学校への乗り入れ授業する教員と非常勤講師は、普段から T. T を取っており、中学校での授業の継続性が担保されており、実にきめ細やかな対応がされていると感じた。また、事務職員、養護教諭、栄養士、図書館司書にまで「兼務発令」されており相互支援体制の確立や予算・事務の効率化

が図られている。

前述の通り、新庄市においても小中一貫教育に呼応した教職員体制が計画されていると伺っているが、人事に関しては、県教育委員会の裁量によることが大きく、現時点では判断しかねる状況である。今後、既存校舎の老朽化に伴う小中一貫教育を踏まえた校舎の建設の仕方、児童生徒数など様々な将来像が想定されてくるが、次世代を担う子供を全体で育てるといった観点から市の教育行政を注視していきたいと決意を新たにしたところである。

調査事項（２）

農地・水・環境保全向上対策事業を活用した地域づくりを調査するため視察を行った。（宇都宮市逆面地区）

人口： 516,385 人 面積： 416.84 km²

（視察事項）

○「フクロウをシンボルとした『生き物と農村の共存』」とテーマとした地域づくりについて視察した。

■視察日時 平成25年11月19日（火）
 午前9時00分～11時00分

■所 感

農地・水・環境保全向上対策事業は、新庄市においても重要な農業施策の一つとなっている。今後、米の生産調整等、国の農業政策の見直しが検討されている中、同事業は、中山間の農業支援の大きな要素となってくる事が予想される。

新庄市においては、同事業を活用した水路・農道など農業施設の維持管理、農地における耕作放棄防止に各保全会（自治会）が取り組んでいる。合わせて、農村環境向上の観点から、生き物調査など取り組んでいる保全会もあるが、新庄市に存する「希少生物」などのイメージが共有化されておらず、農産品のPRにも活用されていない。今回視察した宇都宮市逆面地区は、地元で生息するフクロウを題材に、焼き物を道路、玄関などに設置するなど地域の景観づくりを行っており、また、特別栽培米をフクロウ米と称して売り出すなど、その取り組みが農水省のHPで全国に紹介されている。このような取り組みやフクロウ米を原料とした焼酎づくりも地元酒造会社や宇都宮大学と連携した活動を実践していることは、新庄市にも応用できると感じた視察となった。

前日の小中一貫教育の視察と合わせ、懇切丁寧に説明頂いた方々、日程調整を引き受けて頂いたそれぞれの議会事務局に感謝して報告とします。

（文責 絆の会 石川正志）